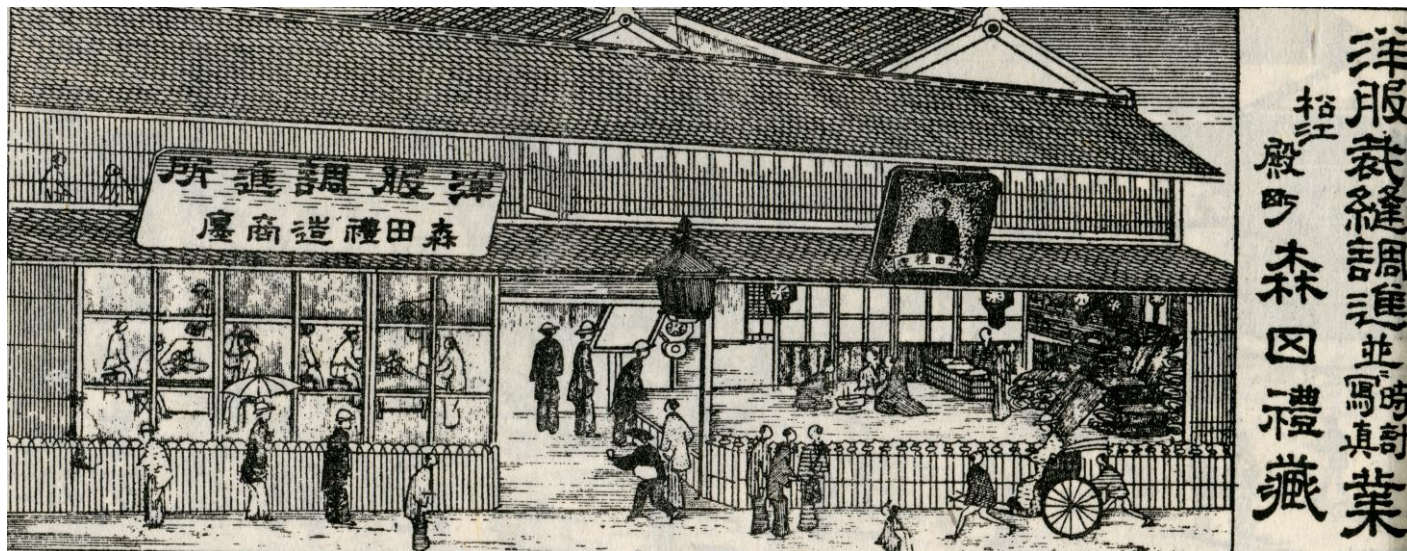


# 山陰地方初の写真師森田禮造と その弟子堀市郎



森田禮造の肖像を店頭に掲げる松江市殿町の森田写真館（『山陰道商工便覧』明治20年〔1887〕刊）

## 森田 禮造 (1848～1920)

森田禮造は、幕末、藩の人参方にんじんかたに関わる仕事で長崎へ行き（16歳）、翌年、写真の開祖と呼ばれた上野彦馬うえのひこまに写真術を学び、



城下殿町の森田写真館で撮影されたラフカディオ・ハーン（小泉八雲）（小泉八雲 松江時代 小泉家蔵）

慶応元年（1865）に松江城下で写真館を開業した（18歳）。このラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の肖像写真は3年前に新築した殿町67・68番地とのまちにあった森田写真館で撮影された。ハーンが松江に滞在した明治23年8月から翌年11月までの間のものである。これは内閣総理大臣・若槻禮次郎の養父（叔父）若槻敬と奈美夫妻のガラス写真の背景（絨毯や壁）から、昨年、禮造の経歴と共に新たに明らかとなった。いずれも禮造撮影の貴重な写真である。



森田禮造商店の屋根に掲げられた禮造肖像（『山陰道商工便覧』より）



森田禮造のロゴマーク

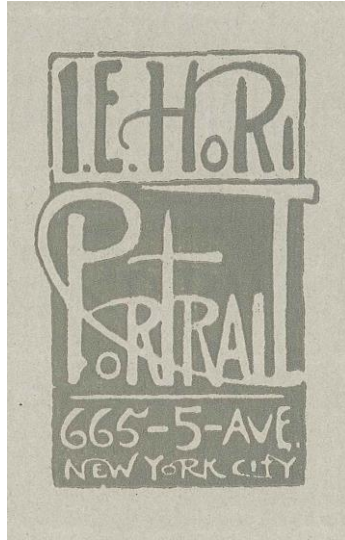
若槻敬・奈美夫妻 明治 23 年 (1890) 2 月 1 日  
森田禮造撮影 松江歴史館蔵



## 堀市郎 (1879~1969)



堀市郎肖像写真  
(佐々木寛子氏提供)



堀市郎のロゴマーク

堀市郎の父は旧藩士で、明治 17 年 (1884) に山陰地方初の和洋画学校を松江で開校した画家・堀櫟山<sup>れきざん</sup>である。市郎は同 23 年に尋常小学校を卒業 (11 才) するとすぐに森田写真館で写真の勉強を始めた。

同 29 年には八雲の美保関行きにも同行し (17 才)、翌 30 年上京、同 34 年に渡米した (22 歳)。大正 6 年 (1917) にニューヨーク・マンハッタンに堀写真館を開業して、ブロードウェイの役者や映画俳優、日本の要人らを撮影した。「ヴォーグ」や「ニューヨーク・タイムス」等にも写真を掲載し、「写真の開拓者」と評された。野口英世とは部屋が隣で親友であった。



### 日米生糸貿易の創始者

あら いりょういちろう  
新井領一郎とその家族

前列に新井領一郎、左側に田鶴<sup>たづる</sup>夫人

後列に長男の米男<sup>みつ</sup>・盈<sup>みつ</sup>夫妻

最前列が孫の領

堀市郎撮影 於ニューヨーク 1905~28 年  
佐野博史氏蔵